



人を大切にする企業・職場をめざして

西脇市には多くの企業や職場があります。それぞれの企業や職場では、人を大切に、社会とつながりながら社会的責任を果たされています。その中で、西脇市人権教育研究大会でレポート報告された企業・職場を紹介します。



企業における社会的責任を自覚し、一人ひとりが人権感覚を高め、働きやすい職場づくりを進めよう。

話し合いの一部

- Q 従業員の意見をすいあげるには。
- A 一人ひとり面談して考えを引き出すようにする。
- Q ゆとりをどのようにつくっているか。
- A ゆとりはないが、みんながゆとりをつくれるようにすることが大切。みんなができるようにする。
- Q 障害者雇用のマネジメントは。
- A やる気ができるようにすること、他のものが違和感を持たないように研修すること。

株式会社関西C.I.C研究所

- ◆理念
「クリーンビジネス」を通して、我が国の産業の発展と、限りある地球資源のリユースに貢献します。
- ◆取組
「障害者雇用の取組について
～誰もが輝ける職場をめざして～」
障害者、外国人技能実習生（フィリピン）を積極的に雇用しています。
障害者は、雇用後支援の充実をはかるために、西脇市障害者相談支援センター、ういぶねっと、特定非営利活動法人白ゆり会、西脇公共職業安定所ハローワーク西脇と綿密な連携をしています。
モットーは、「弱い人には、やさしくする」。



株式会社いけうち西脇工場

- ◆理念
私たちは、霧の専門家「フォグエンジニア」として新しい霧発生方法と活用方法を開発を続け、社会に提供することで豊かで潤いのある社会形成に貢献します。
- ◆取組
「全ての社員がいそいそと働ける職場づくり～人権研修の充実を目指して～」
・セクハラやパワハラ防止策として管理職研修やDVD活用等の職員研修を各事業所で行っています。
・外国人（ベトナム人実習生）の雇用と異文化に配慮した職場、日常生活へのサポートをしています。
・障害者雇用によって職場の人権意識を変える機会ともなっています。



セブンイレブン西脇和田店

- ◆理念
「近くて便利」を基本に地域の皆様に年中無休24時間、絶えず変化されるお客様の要望にコンビニエンスという無形価値で対応し続けるお店を心がけています。
- ◆取組
「地域に根差したお店の経営
～男女共同参画の視点にたつて～」
経営者自身の社会的立場の自覚とともに率先して従業員教育や店舗経営を男女共同参画の視点で行っています。
多世代の働きやすい「自由シフト」勤務をしています。
従業員はパートナー、「お疲れさま」「ありがとう」を伝えます。
地域の店として「詐欺」防止など警察と連携して貢献しています。
モットーは「実るほど頭を垂れる稲穂かな」。

たおやかに生きる地域の人たち

私たちは、だれもが自分らしく生きたいと願っています。そして自分の好きなことや、得意なことでも誰かを喜ばせることができれば、なんて素敵なことでしょう。輝きの力ぎは・・・、だれもが幸せに生きるために、新しい生き方に挑戦してみましょう。

こわれたおもちゃに「生命を」
おもちゃ病院ドクターの皆さん
代表 川根 孝之さん



段ボール工作で みんなに夢を!!
奥村 和弘さん



物を大切にする心が育まれ、大切な思い出が再び輝きだす。おもちゃを修理することを「趣味」と明言され、ご自身も楽しみながら、子どもたちの笑顔に出会うことを楽しみに、活動されています。
毎月第3土曜日、9時～正午
Miraie 工芸室



Miraie に一歩足を踏み入ると、四季折々の大きな段ボールで作った作品が目飛び込んできます。
奥村さんと段ボール工作との出会いは、お孫さんが小学校1年生の夏休みの工作でした。お孫さんの大きな恐竜と一緒に作ったことが、奥村さんの第2のライフワークになりました。
図書館との出会いは、読書ボランティアに妻と一緒に参加された時のことです。「この部屋、ちょっとさみしいね。なんか子どもが喜ぶようなもので飾れたら・・・」という妻の一言から始まりました。



梅干しと私 ～高齢者について考える～
「食べ物が腐る時期に、梅の木に実がなる」と幼い頃、祖父から聞いたことがあります。子ども心に感じたもので、近頃、このような高齢者と話す姿をあまり見かけなくなつたように感じています。とはいえ、西脇市は三世帯同居が比較的多く（約四割）、高齢者のことを知る機会が比較的高齢者への関心が低くなり、誤った見方をしてしまわないでしようか。
「長患いをせずに亡くなってよかったですね。迷惑をかけない。子孝行」と言った会話を耳にします。当人たちは特に悪気はないようですが、高齢者は「病気を患ってはいけなないのか」と生きていくことに気を遣ってしまっています。また、ある集会上に「枯れ木も山の賑わいだから参加して下さい」と高齢者の参加を呼び掛けたところ大きな問題となりました。高齢者は枯れ木なのでしょうが。
高齢者は、体力面での低下や意欲、感情抑制、判断力などの低下を感じ、配偶者、家族、友人を亡くすことや居場所や仕事をなくす喪失感を抱え、死や病気の恐怖心を持ちながら日々の生活を送っています。
社会的なつながりの中では、「古い」考えと否定され、「若い」ことに値打ちがあるとの風潮や「衰え」に対する過度な手立てで自尊心が傷つきます。また「何もなくなっていくよ」と家族や地域から言われ、自己有用感をなくすこともあります。
しかし、実際、高齢者はそうでしょうか。不安や悩みを抱えながらも力強く生きています。素晴らしい経験知と共に楽しみや希望を持ち自己を高めています。統計では、高齢者の八割以上は精神的に健康であるといわれています。ストレス、身体の不調があっても見事に心のバランスをとっています。高齢者をひとくくりにしてイメージすることはできません。
限りある一度の命を最後まで輝かせて生きたい、互いを価値ある人間としていつまでも認め合える社会であってほしいと思います。そういえば、「風邪をひきやすい冬の時期に、蜜柑が実る」ことも祖父から教わりました。
(広報にしわき 心のスケッチ6月号より)